

あがつま

「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」



(ローマの信徒への手紙 12章1節)

♪ 讃美歌を歌おう ⑩
『はてしも知れぬ』 (讃美歌 292番)
主イエスを、水先案内人として歌い上げるこの讃美歌は、ニューヨークの船員教会 (Church of Sea and Land) で作られました。
船乗りは、長期に及ぶ航海の中で、様々な問題やストレスを抱えます。常に「海原」という自然を相手にした危険な職業である上に、生活空間は船上に限られ、寄港地で上陸して休む時間もごくわずかです。週毎の礼拝を守ること難かつたり、家族との連絡さえもままなりません。船員教会は、そうした船員とその家族をサポートしました。原作者のポート・ホッパ (1816-1888) は、ニューヨーク市のユニオン神学校で教育を受けた長老派の牧師で、数冊の本を残しています。



(稲垣真実)

ある時、ホッパは船員友の会の会合の記念日のために、讃美歌の作詩を頼まれ、8年前に書いていた詩を持参しました。そして、その詩を見たジョン・エドガー・グールド (1821-1875) によって曲が作られ、船員の雑誌に掲載されたことで広く知られるようになったのです。
嵐に翻弄される舟の上で、「なぜ怖がるのか。信仰の薄い者たちよ」(マタイ 8:26) といって、風と湖を叱りつけ、嵐を静められた主イエスの姿を水先案内人として歌うこの讃美歌は、船乗りたちだけでなく、人生の荒波を行く多くの信仰者たちを励ましつづけています。